

2023年2月定例議会 一般質問

件名1	プロポーザル手法について
要旨①	これまでの状況について
質問	当市は、競争入札によらない契約方式として、平成29年から、「犬山市プロポーザル方式実施取扱要綱」を運用しているところです。プロポ方式とは、事業を進めるにあたり、その実施体制、実施方針、技術提案等に関する提案書を提出してもらい、プレゼンやヒヤリングにより審査を行い、契約の履行に最も適した受注候補者を選定する方式ということですが、この提案型の手法をもう少し、詳細に見てみますと、提案者、すなわち、人を選定するプロポーザル方式と、提案内容を選定するコンペ方式があると言われております。先程申し上げました当市の実施取扱要綱というのは、プロポーザルと云えども、コンペ方式に近いものも包含していると思っています。そこで、1点目として、平成29年度から、現在までに、市のプロポ取扱要綱に基づき行った業務名などの概要をお尋ねします。また、2点目として、プロポ方式の実感としてのメリットについて、お訊きします。
回答	まず、平成29年度から現在までに実施したプロポーザルですが、犬山南小学校や橋爪・五郎丸子ども未来園の整備に係る基本設計といったハードに関するもの、また、羽黒中央公園の指定管理者や協働プラザの運営といったソフトに関するものについて、合わせて14の事業を対象として行いました。次に、プロポーザルのメリットですが、当市では、いずれも公募型を採用しているため、競争性と公平性が確保できている点や、企画力や遂行能力など、金額以外の技術的な要素により業者の選定ができる点、さらには、優先交渉権を得た事業者との協議により業務の仕様を煮詰めていくため、市にとってより良い内容にカスタマイズできる点などが挙げられます。
再質問	これまでに、14件の実績があるということで理解しましたが、再質問いたします。これらの業務の中身の内訳について、すなわち、本来のプロポ方式と、どちらかと云うとコンペに近いプロポ方式とに分けた場合の件数は、どうだったのかお訊きします。
回答	まず、先ほど申し上げた14件は、いずれもプロポーザルとして実施しており、事業者の負担となる詳細なイメージ図や図面、模型などを求めたことはないと思います。コンペのように提案内容の完成度を競わせたことはなく、あくまでもアイデア自体の良し悪しや、それを実現する能力の有無、事業者の人となりなどを総合的に評価しており、それぞれの案件ごとに最適な知恵と力を兼ね備えた事業者を選定したものだとも認識しています。しかしながら、議員が仰った「最適な提案者を選定するのがプロポーザル」で、「提案内容を選定するのがコンペ」という括りで分類するのであれば、犬山南小学校や橋爪・五郎丸子ども未来園の基本設計と、若あゆ丸の改修の3件がコンペの要素も持つプロポーザルで、残りの11件が本来のプロポーザルと言えるのではないかと思います。
要旨②	提案者の負担軽減について
質問	要旨2点目、提案者の負担軽減について、お尋ねします。新羽黒保育園整備事業のように、保育園の運営主体を選定することを目的として実施するものは、提案に係る経費や建物の概要設計に係る経費は、長い目でみれば、ペイできるので、さほど気にはなりません。問題は、小中学校などの整備計画を、提案型で実施する場合です。学校のコンセプトや基本方針、そして建物概要（平面図や鳥観図）まで、含んだコンペ的な提案を求めることになる為、応募者側に、かなりの負担を強いることとなります。応募するコンサルや設計業者は、提案の採用を期待することになり、完成予想図のパス作成は、当たり前で、事業者によっては、模型の作成まで行いアピールする場合があります。また、提案書作成までには、相当の費用が生じるため、結局のところ、応募できる者は、大手ゼネコンや経営的に余力のあるコンサル業者に限られる恐れがあります。提案を求める施設などの規模や内容にも依りますが、市内の設計事務所や一般的なコンサル業者は、なかなか手を挙げるできない状況にあります。応募者側に大きな負担をタダで強いるような手法は、今の時代にそぐわないと思っていますし、自治体によっては、応募の為の費用をみることもあります。これまで、タダで済ませて来ましたので、ある程度予算が余分に生じることとなりますが、従来の、いわゆる「げんこつ」とか「手弁当」といった手法は、いずれ改めるべきと考えます。これについての当局の見解を求めます。
回答	議員ご指摘のとおり、プロポーザルの提案には時間と費用が必要となることは理解しており、一部の自治体では、一定の要件をクリアした提案者に報酬を支払った例があることも承知しています。ただ、プロポーザルへの提案は、事業者にとっての営業活動であり、将来的な利益のための負担は、自然なことだと思いますし、当市にとっては、熱意だけでなく、提案内容を確実に履行できる事業者の選定が不可欠です。より良い提案のためには、多くの提案を募ることが必要であり、提案者への報酬も一定の効果があるかと思いますが、プロポーザルの対象とす

コメント	る事業は様々ですので、報酬に限らず、その手法については案件に応じて判断すべきものと考えます。プロポーザルの実施に際しましては、これまでも過度な追加資料の提出を求めないなど、事業者の負担軽減に努めてきたところですが、ご指摘を踏まえ、報酬も含め、その手法について研究してまいりたいと思います。
件名2	国道41号について
要旨①	これまでの状況について
質問	国道は、正式には国道何々号と表記し、線はつけないことになっていますので、「国道41号線」ではなく、「国道41号」ということで、進めさせていただきます。また、国道は、改めて言うまでもなく国が所管していますので、整備などに関して、犬山市としての裁量はありません。しかしながら、国道41号は、名古屋方面、美濃加茂や高山方面へ行く重要な道路であり、犬山市民にとって、大きく関係する道路ですので、この議場でも取り上げさせていただきます。国道41号は、別名『名濃バイパス』や『名濃道路』とも言われており、現在は、6車線化工事が着々と進められています。一方で、小牧インターからの有料道路の延長を要望している側面もあります。そこで、まず、現在進行中の工事や高規格化の状況、これに関わる期成同盟会など、道路名称も含めて、国道41号に係る内容を整理して、説明をお願いします。
回答	国道41号に関連した活動として、沿線の4市4町で構成する名濃バイパス建設促進期成同盟会を組織して、国に対する要望活動を行っています。次に、道路名称として、名濃バイパスと名濃道路の使い分けについてご説明します。まず、名濃バイパスとは、名古屋市から美濃加茂市までの国道41号のことであり、現在、小牧市村中から犬山市五郎丸までの7km区間について順次6車線化工事を実施しています。一方、名濃道路は、小牧市から美濃加茂市を結ぶ道路であり、令和3年3月に公表された新広域道路交通ビジョン・新広域道路交通計画(中部ブロック版)に広域道路ネットワークの高規格道路として位置づけられています。最後に、同盟会として、いくつか要望をしていますが、犬山市に関係する内容として、1つ目は、現在進めている五郎丸までの6車線化の整備推進を図ること。2つ目は、五郎丸から美濃加茂市までの6車線化の早期計画をすること。3つ目は、名古屋高速小牧出口より北の名濃道路について調査推進を図ること。以上、大きく3つの要望をしています。
コメント	
要旨②	6車線化工事について
質問	要旨2点目として、6車線化の今後の工事スケジュール詳細をお尋ねします。それと、もう1点、五郎丸以北の車線増設整備については、どういった状況にあるのか、そして、整備するにあたっての課題は何か、をお示ください。
回答	ご質問の内容について、道路管理者である国に確認したところ、現在進められている五郎丸までの6車線化工事については、令和5年度までに完了する予定とのことで、また、五郎丸以北の今後の状況についても、「現在実施している事業の効果や開通後の状況を踏まえ引き続き検討していきたいと考えている」ということでした。
コメント	非常に残念な答弁です。市が国に対して、どんな聞き方をし、どんな遣り取りがあったのかは、判りませんが、来年度中に工事が完了することは、言ってみれば誰でも知っていることで、私が訊いているのは、何月頃に工事を終えるかとか、工事手順等についてです。もし、工事の完了時期が諸般の事情により明言できなければ、こういった理由で、何月かは答弁できないと答えていただければ、いいのではないかと思います。もう少し、市民目線に立って考えていただければ、と思います。これ以上は、申し上げませんが、残念です。
再質問	再質問させていただきます。個人的な話ですが、私は、月に1回程度、愛知用水の関係で、大府市内にある土地改良区事務所に自家用車で出かけています。朝10時からの会議ですので、8時15分から30分の間に、自宅を出る訳ですが、毎回、大口町と小牧市の境目くらいから、村中交差点を通過して、名古屋高速の小牧北インターに入るまでが、慢性的に渋滞しています。これを解消するには、有料道路への上り口をもう少し北まで、延伸する必要があると思っています。41号の6車線化が、どんどん進み、以前に比べますと、渋滞ストレスが随分緩和され、非常に有難く思っていますが、それはそれとして、国道事務所として、渋滞について、どう捉えており、何か方策を検討しようとしているのか、お尋ねします。
回答	こちらにつきましても、国に確認したところ、「小牧北インターを含めた、村中交差点付近の渋滞については、愛知県道路交通対策推進協議会において検討をしており、引き続き、関係機関と連携しながら、渋滞対策を検討していきたい。」と、いうことでした。
コメント	国としても渋滞が依然続いているということ、認識して頂いているようで、一応、安心しました。愛知県の道路交通対策推進協議会での議論に期待したいと思います。

要旨③	高規格道路について
質問	高規格道路、いわゆる名濃道路は、平成6年12月に、地域高規格道路の候補路線として路線認定されましたが、更に、要旨1点目で答弁がありましたように、令和3年3月に新広域道路交通ビジョン・新広域道路交通計画に於いて、高規格道路として位置づけられたということです。整備に1歩近づいた ということです。そこで、先程も申し上げましたが、渋滞ストレスの緩和は、高速道路の延伸が不可欠と考えますので、今後の期成同盟会の動向など、市の取組についてお尋ねします。
回答	期成同盟会の中で犬山市は、昨年8月に会長市となりました。市としては、会長市としてリーダーシップを図り、これまで以上に関係市町と連携を強化し、引き続き機会をとらえて、国に対して粘り強く要望していく考えです。
要旨④	市長の「思い」について
質問	原市長は、前職の県議時代に、国道41号の6車線化に取り組んでこられ、人一倍この件については、思い入れが強いと拝察いたします。そして、ようやく五郎丸までの工事が完了することとなりました。完成により、これまで以上に、人の交流や物資の流通が促進され、当市にとって、大いに期待するところであることは、間違いありませんが、先程来の質問や当局答弁にありますように、ここで終わりではないと思っています。そこで、市長として、この先をどう考えておられるのか、或いは、現在の「思い」などについて、お訊きします。
回答	名濃バイパスは、愛知県と岐阜県を結ぶ交流ネットワークの要です。また、防災・減災・国土強靱化からも極めて重要な道路です。さらに、犬山市を始めとした沿線地域の経済発展のために欠くことのできない路線であることは言うまでもありません。私が初めて県会議員選挙に挑戦した時の1番の公約に、国道41号の6車線化を掲げました。ここに込めた思いは、渋滞解消のための道づくりだけではなく、犬山の新しいまちづくりにつなげたいとの考えからです。その新しいまちづくりとなる道づくりは、犬山で終わりではありません。可児市と美濃加茂市、川辺町まで続いていかなければならないのです。そればかりではなく、さらなる沿線市町の発展のための事業展開が求められます。そのため同盟会として、五郎丸交差点までの6車線化の1日も早い完成と五郎丸以北の6車線化の早期計画策定、さらに名古屋高速道路小牧北出口以北の名濃道路の調査推進などを強力に要望していきます。名濃バイパスの6車線化が、犬山まであと一歩のところまで進み、整備効果は肌で感じています。繰り返しますが、ここで一区切りではありません。沿線市町の更なる発展のため、会長市としても先頭に立って、関係市町の首長とも連携を図っていきます。そして、同盟会と沿線市町、犬山みなさんの想いを形に変えるため、実現に向け全力で取り組んでいきたいと考えています。
コメント	市長。ご答弁ありがとうございました。市長の思いは、しっかり受け止めさせていただきましたので、宜しくお願ひしたいと思います。自分としても、応援したいと思っています
件名3	施政方針について
要旨①	南小学校建て替え校舎の木質化状況について
質問	南小学校北舎は昭和33年建築で、市内小中学校の中で、最も古い校舎であり、施政方針では、令和6年2月の供用開始を目指すこととしています。そこで、建物についてですが、平成22年に制定された「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」により、公共建築物の木材利用が推奨されていることは、周知のことです。最近では、公共建築物の木材利用が、ある程度進んだ一方で、民間建築物の木造率や木材利用が依然低迷していることから、先程申し上げた法律が改正され、題名が「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に変わるとともに、建物の対象が公共建築物から建築物一般まで拡大され、令和3年10月1日から施行されています。木材は、日本の豊富な資源であると同時に、木材利用の拡大がSDGsの達成などに貢献するという視点から言えば、積極的に取り組んでいく必要があると考えます。数年後には、東京・丸の内に、世界最大級となる「高さ100mの木造高層ビル」が登場するようで、技術がどんどん進歩していますが、現時点では、建築基準法の関係や建築コストなどの課題があると思っています。3階建て、4階建ての校舎の木造化は、今は難しいかもしれませんが、木質化は可能で、昨日の畑議員の一般質問にて、森林環境譲与税を1700万円程投入したとの発言がありましたので、私からは、新校舎の木質化状況について確認させていただきます。
回答	犬山南小学校の新校舎は、普通教室、多目的スペース、給食室を一体化した2階建ての校舎です。国では令和4年度より公立学校施設の標準的な仕様を一部見直し、児童が日常的に手を触れる部分は木質化することを標準とし、木材の利用について積極的に取り組むよう推奨しています。そのため、市では、児童が学校生活で手に触れる壁や家具の内装を木製とし、日頃から木材のやさらかさや温かみを感じながら、豊かで快適な学習環境を整備します。具体的には、教室及び廊下の壁や床、教室内のロッカー、図書スペースの書棚、多目的トイレの壁などを木製とします。特に、児童のランドセルロッカーや、地域の人も利用する書棚、多目的トイレについては、愛知県産又は国産の木材を使用する予定です。また、令和6年度実施予定で現在、設計業務を進めている、南校舎の長寿命化改良工事でも、引き続き、内装の木質化に努めてまいります。

要旨②	小中学校等の給食費無料化について
質問	給食費の無料化については、昨日も柴田議員から質問がありました。私は、財政面について、少しお訊きします。この事業は、私も、柴田議員同様、原市政公約の最重点施策と認識しており、自分としては、基本的に賛同しています。そして、施政方針では、まずは小学6年生と中学3年生を対象として、今年9月から順次実施するとの方向性が示されました。細かいことは、補正予算上程の際に改めて審議したいと思いますので、ここでは、ざくっとしたことを確認させていただきます。1点目として、小学6年生と中学3年生の2学年を対象とした場合、どれくらいの予算が必要なのか。2点目として、給食費を無料化した場合、これに係る予算は、経常的経費として毎年生じることとなりますが、財政シミュレーションをどう見ているのか。以上、2点について、お訊きします。
回答	令和5年9月から子育て世帯の経済的負担の軽減を目的に、新たな子育て支援対策として、進学準備で費用がかさむ小学6年生と中学3年生を対象に給食費を無料化する予定をしています。新たな無料化事業に係る7か月間の経費としては、小学校6年生が約520人で約1,900万円、中学校3年生が約630人で約2,500万円、合計で約1,150人、約4,400万円が必要であると試算しています。参考として、令和6年度からは1年を通じて無料化を実施する予定ですので、小学校6年生が約500人で約2,800万円、中学校3年生が約600人で約3,600万円、合計で約1,100人、約6,400万円の経費が必要と試算しています。
回答	只今、教育部長が申し上げた経費について、令和4年8月の全員協議会において示させていただいております財政シミュレーションに反映させますと、シミュレーションの最終年度となる令和8年度で、約12億円の財政調整基金の残高となります。財政調整基金については標準財政規模の1割程度を一つの目標としており、約12億円の残高は目標には達しないものの、過去の基金の状況からみても、健全な財政運営を損なうレベルではないと判断しております。しかしながら、財政シミュレーションを作成した当時と比べますと、本事業のほかにも歳入歳出の両面において異なる状況が見受けられます。毎年度、実施計画の策定と合わせて財政シミュレーションを更新しておりますので、給食費の無償化につきましても次年度作成する財政シミュレーションに反映させ、しかるべき時期にお示しさせていただきたいと考えております。
コメント	答弁ありがとうございました。2学年実施で、年間約6,400万円ということなので、これを全学年に適用した場合、単純に計算しても、これの4.5倍程度必要となり、この他に、既に現在、無料化しているものを加えますと、いずれかの時期には、年間3億円を超える支出を見込むことになると思います。財政運営に大きな影響があることは承知していますが、しっかり取り組んで頂きたいと思えます。また、安定的に予算を確保するためには、一方で、思い切って、事業を廃止したり、事業の手法を見直したりすることも必要かと考えます。それなりに反発も予想されますが、こうしたことにも積極的に取り組んで頂くことを、申し上げます、私の一般質問を終わります。